

航空宇宙工学科の教育・研究理念は、1) 未開拓技術の宝庫かつ産業としての可能性が大きく、2) 先端技術を他分野へスピノフでき、3) システム統合化技術の象徴でもある航空宇宙工学への飽くなき情熱に支えられている。
履修内容は大きく4つの専門分野に分けられよう、それらをまたがり総合する形で、航空機・宇宙機

推進機といった先端的ハードウェアを意識し創造する力が求められる。つまり、システム統合化能力を発展させる教育が大切実践されている。航空機ばかりでなく自動車のボディやエンジン設計者、また飛行制御機器技術者からそれを操作する宇宙飛行士まで、様々な分野で優秀な人材を輩出している背景には、そうした教育・研究理念がある。

基礎科目

数学・力学の基礎に習熟し、先端システムにつながる総合応用力を身につける

- 数学1
- 数学2C
- 数学および力学演習
- 電気工学通論1
- 電気工学通論2
- 電気工学実験大要
- 計測通論
- 計算機工学演習
- マテリアル相平衡論
- 設計・機械力学
機構通論
- など

専門科目



卒業設計

卒業論文

大学院でコース(空力、制御・システム、構造・材料、推進、先端エネルギー)別に、より専門的な教育・研究

教養

2年冬

3年

4年